BELT DRIVE CD PLAYER

USB Sound System CD5

取扱説明書

この度は、CECデジタル入力付きベルトドライブCDプレーヤーCD5をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機の特徴を正しくご理解いただき、末永く安全にお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。

外装箱や梱包材は再輸送の際に必要ですので、保証書や取扱説明書と一緒に大切に保管してください。

もくじ

本機の特徴

▷ CD5は、スピンドルをベルトで駆動するベルトドライブ方式のメカニズムを採用することで、スピンドルモーターが発生する機械振動や電磁ノイズを効果的に遮断します。ベルト駆動方式に欠かせない高精度CDスタビライザーは、扱い易い直径 7cmを採用。ベルト駆動と大きな慣性が生み出す滑らかで安定したディスクの回転は、高音質再生に大きく貢献します。

▷ ベルトドライブCDでは初めて、ユーザーがベルトを交換できる新しいメカニズム構造を採用しました。ベルトの寿命に対する懸念やサービスセンターでの交換の煩わしさを払拭することで、ベルトドライブが奏でる素晴らしいCD再生音楽をさらにお気軽にお楽しみ頂けるようになりました。

▷ デジタルからアナログ信号への変換には、ESS社の32bit対応ハイパーストリームDAC ES9018K2Mを採用。優れた技術とパフォーマンスに裏付けられたD/A変換後の高品位な信号は、さらに独自のフルバランス型回路で処理・伝送されることで、音楽性豊かな瑞々しい再生音を実現しています。

▷ 外部デジタル入力を装備することで本機が内蔵する高精度DACが、外部入力するSPDIF信号のみならずパソコンで再生するDSDファイルなどのハイレゾ音源を、アナログ信号へ変換。ヘッドフォン出力も装備しているので、これ一台あれば様々な音楽ソースを高音質でお楽しみ頂けます。

安全上のご注意

製品を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この取扱説明書には、いろいろな絵表示が記載されています。これらは、製品を安全にお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。記号の意味をよくご理解の上、本文をお読みください。

記号の意味

 警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡または重傷を負う可能性があります。

 注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、ケガをしたり、周辺の家財に損害を与える可能性があります。

注意を促す記号

一般的な注意

感電注意

してはいけない行為（禁止行為）を示す記号

禁止

分解禁止

必ずしてほしい行為（強制、指示行為）を示す記号

電源プラグを
コンセントから抜く

一般的な強制

警告！

万一、次のような異常が起きたら ...

- 煙が出たり、変なにおいや音がする。
- 機器の内部に異物や水が入った。
- 落としたり、キャビネットを破損した。

すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。

・電源ケーブルを傷つけない。
・電源ケーブルの上に重いものをのせたり、ケーブルを本機の下敷きにしない。
・電源ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。

ケーブルが破損すると、火災、感電の原因となります。万一、電源ケーブルが傷んだら（心線の露出、断線など）、販売店または当社サービスセンターに交換をご依頼ください。

・電源プラグにほこりをためない。

電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災、感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。

・機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない。

内部に水が入ると、火災、感電の原因となります。

警告！

・表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する。

この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧以外では使用しないでください。火災、感電の原因となります。

・この機器のカバーは絶対に外さない。

カバーを開けたり改造すると、火災、感電の原因となります。内部の点検、修理は販売店または当社サービスセンターにご依頼ください。

・この機器のカバーを開けたり、内部に手を入れない。

この表示部分に手を近づけたり触れたりすると、感電やけがの原因となります。

注意！

・この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、他の機器との間は15cm以上離して置く。

内部に熱がこもり、火災の原因となります。

・ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。

・湿気やほこりの多い場所に置かない。

・調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気があたる場所に置かない。

火災、感電やけがの原因となることがあります。

・電源コードを熱器具に近づけない。

コードの被ふくが溶けて、火災、感電の原因となります。

・電源プラグは、異常が発生した時にすぐに抜けるような場所にあるコンセントに差し込む。

・濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

・電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。

コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

・旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。

・お手入れの際は安全のため、電源プラグをコンセントから抜く。

感電の原因となることがあります。

・移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

使用上のご注意

❶ 電源電圧はAC100V

本機は、定格電圧100Vでご使用ください。

❷ 他の機器と接続するとき

他の機器と接続するとき、または接続を外すときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

❸ 本機の電源を入れるとき、切るとき

▷ 電源を入れるときは、本機の電源を先に入れてから、アンプやD/Aコンバーターの電源を入れてください。

▷ 電源を切るときは、アンプやD/Aコンバーターの電源を切ってから本機の電源を切るようにしてください。

本機の電源を入れたり切ったりするときに発生する微小ノイズがアンプで増幅されて、突然大きな音が発生したり、スピーカーや他の機器を破損する恐れがあります。ご注意ください。

❹ 光学式ピックアップ（半導体レーザー）

光学式ピックアップは、CDプレーヤーの性能を決める重要な部品のひとつです。レンズ部分に指などで触れないようにしてください。レンズの表面をきれいに保つために、ご使用にならないときでも、CDドアはいつも閉めておいてください。

❺ CDスタビライザー

CDをホールドするCDスタビライザーは指定のものをご使用ください。変形してバランスを崩したり、他の物を破損する可能性がありますので、落としたり投げたりしないでください。高価な精密部品ですのでお取り扱いには十分ご注意ください。

❻ 取り扱いはていねいに

スイッチやツマミ、CDトレイ、ターンテーブル、キャビネットなどに無理な力を加えることは避けてください。

❼ 設置場所について

次のような場所で長時間ご使用になりますと、音質の悪化や故障などの原因となります。ご注意ください。

▷ 窓際など直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所（周囲温度35℃以上）、または温度の特に低い場所（周囲温度10℃以下）では、製品の正常な機能を維持できない場合がありますので避けてください。

▷ 湿度の多い場所（湿度90%以上）では金属部分にサビが生じたり故障の原因となります。

▷ ほこりの多い場所はスイッチなどの接触不良や雑音等の発生原因になり、性能を損なうことがあります。

▷ その他、トランスやモーターの近くの設置は誘導ハムを拾う原因となりますので、離して設置してください。また、振動の多い場所も避けてください。

音質や性能を最大限に発揮させるためにも、オーディオ専用ラックを使用されることをお奨めいたします。

❽ 水に濡れたら

万一雨がかかったり、花びんなどの水を本機にこぼしたときは、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。この状態で電源を入れた場合、感電の恐れもあり危険です。また故障の原因となりますのでご注意ください。

❾ 落雷に対する注意

落雷の恐れのあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜いてください。

❿ 結露現象について

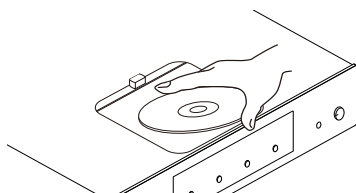
冬期などに本機を戸外から暖房中の室内に持ち込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると結露が生じ、製品の性能が十分引き出せなくなることがあります。
このような場合は、結露の程度にもよりますが、1～2時間そのまま放置し、本機を室温に保つようにしてください。結露は徐々になくなります。

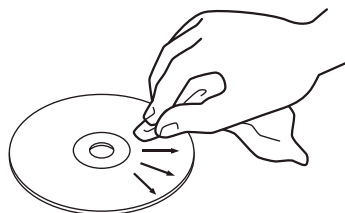
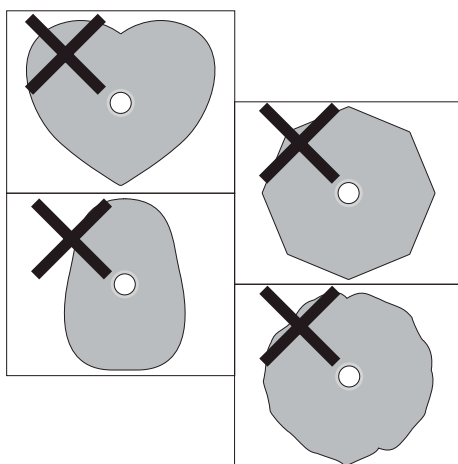
⓫ 演奏を聴くエチケット

音楽を聴くときは、他の人や近隣の迷惑にならないように気を配り、お互いの快い生活環境を乱さないように、音量を上げ過ぎないよう十分注意しましょう。

コンパクトディスクについて

▷ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。

▷ ディスクは、必ずレーベル面を上にして、少し先端を下げながらセットしてください。

▷ 信号録音面(レーベルがない面)に傷、指紋、汚れなどがあると、再生時にエラーの原因となることがありますので、お取り扱いにはご注意ください。

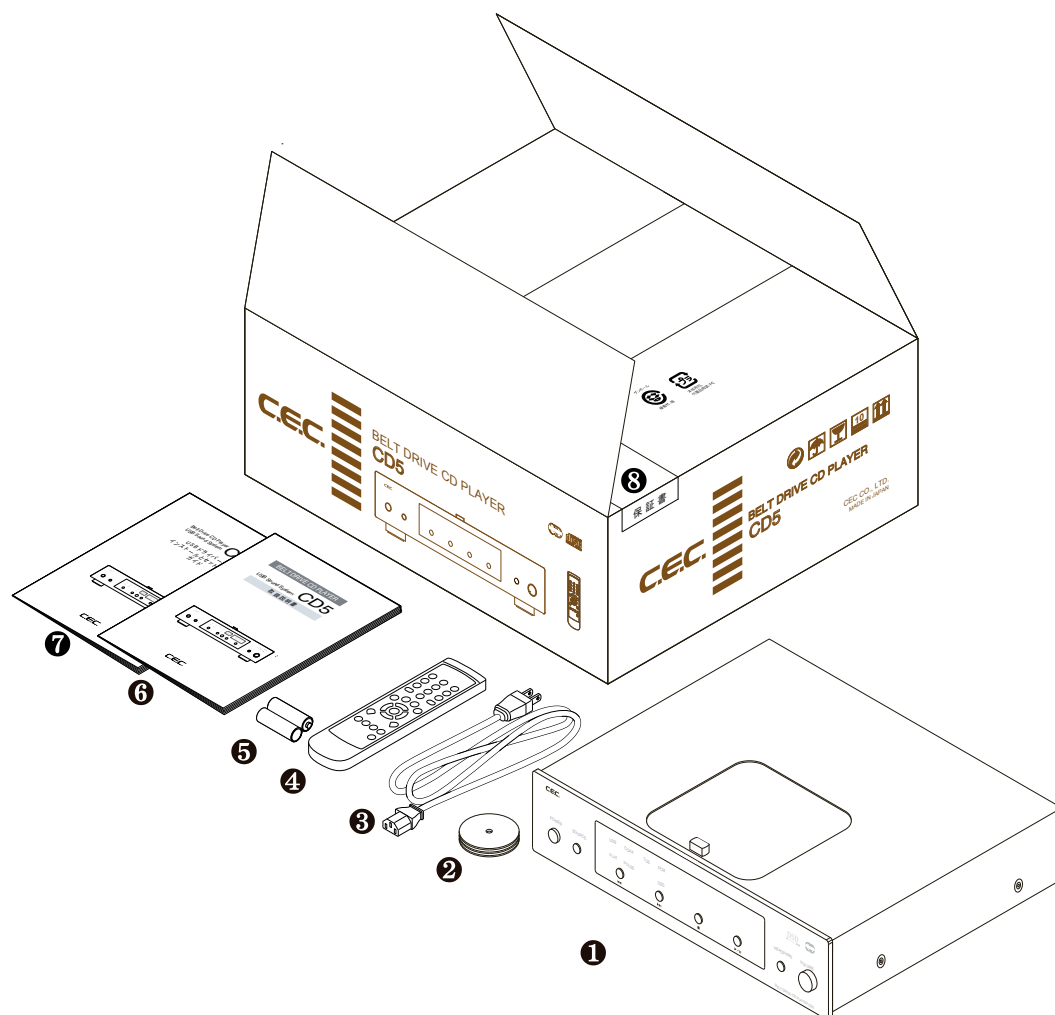
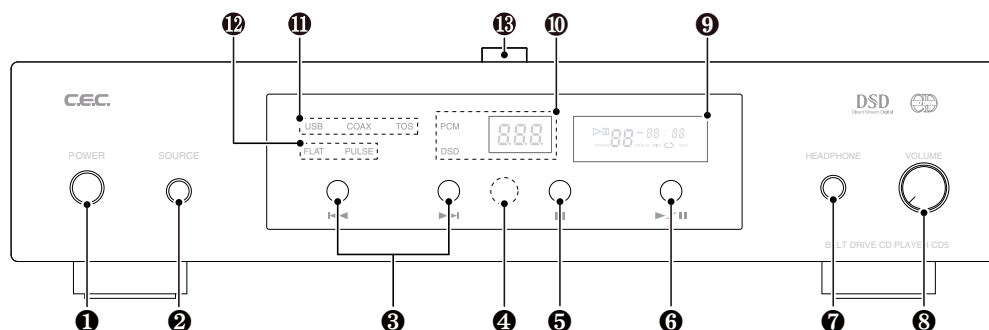
▷ 信号録音面に汚れが付着した場合は、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。ディスクはいつもきれいに清掃して保管してください。

▷ レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。
▷ 直射日光が当たる場所や、高温多湿の場所には放置しないでください。
▷ 使用後のディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
▷ ディスクにはラベルなどを貼らないでください。ディスクにセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、故障の原因となることがあります。
▷ ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
▷ ハート形や八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

CD-R/RWディスクの取り扱い

▷ 本機はファイナライズ済みのCD-R/RWの再生にも対応しています。
▷ ディスクのレーベル面に何か書き込むときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなど、先端の固いペンを使うと、ディスク面を傷つけて再生ができなくなる場合があります。

付属品について

CD5の外装箱の中には、次のものが入っています。最初にご確認ください。

❶CD5本体
❷CDスタビライザー
❸電源ケーブル
❹リモコン
❺リモコン用単4形乾電池(2本)
❻取扱説明書
❼USBドライバーのインストールとセットアップガイド
❽保証書(外装箱に添付)

▷ 外装箱や梱包材は再輸送の際に必要ですから、保証書や取扱説明書と一緒に大切に保管してください。
▷ 付属の電源ケーブルは本機専用です。他の機器には使用しないでください。

フロントパネルの機能

❶POWER ボタン

電源スイッチです。押すと本機に電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。
電源を入れると❾CD用ディスプレイには "0 0:00"が点滅し、CDの有無を確認します。約5秒後、CDがセットされている場合には総曲数と総再生時間が表示され、CDがセットされていない場合は "no dISC"と表示されます。

❷SOURCE ボタン

デジタル音源の切り替えボタンです。本機内部のベルトドライブCD、あるいはパソコンと接続するUSB、外部のデジタルプレーヤーと接続するCOAXIALまたはTOSLINKの4系統の音源を切り替えて使用できます。電源を入れた直後はCDが自動選択され、SOURCEボタンを押すたびにカチッというリレー音と同時にUSB、COAX、TOSLINK、CDの順番に切り替わります。選択され入力するデジタル信号はD/A変換されてアナログ出力とヘッドフォン出力に伝送されます。

❸スキップ|◀◀/▶▶|ボタン

再生中に ▶▶| を押すと、次の曲にスキップして再生します。希望する曲番になるまで▶▶|を続けて押してください。
再生中に|◀◀を1回押すと、再生中の曲の頭に戻ります。それより前の曲を再生するときは、|◀◀を続けて押してください。

❹リモート センサー

リモコンからの信号を受けるセンサーは、パネルの中央にあります。リモコンを正しくセンサーの方向に向けて操作してください。リモコンとセンサーの間に障害物があると正しくリモート操作が機能しないことがありますのでご注意ください。

❺ストップ■ボタン

再生中に押すと、CDの再生が停止します。

❻プレイ/ポーズ▶/❚❚ボタン

再生を開始、または再生中の曲を一時停止します。

❼HEADPHONE 端子

6.3mmの標準プラグ付きヘッドフォン用出力端子です。

※ステレオミニジャック付きヘッドフォンをご使用の場合は、市販のステレオミニジャック変換アダプターをご使用ください。

ヘッドフォンのプラグを入れるときやヘッドフォンを装着するときは、音量を最小にしてから行ってください。音量が大きいまま使用すると、音圧によって耳を痛める可能性がありますのでご注意ください。

❽ VOLUME ノブ

ヘッドフォンの音量を調整します。右へ回すと大きくなり、左へ回すと小さくなります。

❾ CD用ディスプレイ

CDモードで点灯します。CDをセットした状態で、総トラック数、総再生時間、CD再生中は、トラック番号、曲の再生経過時間などが表示されます。

A. プレイ ▷ インジケーター
再生モードで点灯します。

B. ポーズ▌▌ インジケーター
ポーズ（一時停止）モードで点滅します。

C. タイム ディスプレイ
経過時間、残量時間、総残量時間、総経過時間を表示します。

D. プログラム インジケーター
プログラム再生モードで点灯し、Eに曲順を表示します。

E. トラックナンバー ディスプレイ
演奏中のトラック番号を表示します。

F. リピート インジケーター
リピートモードで点灯します。

❿ サンプリング周波数用ディスプレイ

選択し再生している音源のサンプリング周波数を表示します。再生している音源によりPCMまたはDSDが同時に点灯します。

⓫デジタル音源 インジケーター

選択した音源のUSB、COAXまたはTOSが点灯します。CDのときは点灯しません。

⓬デジタルフィルター インジケーター

選択したPULSE(パルス)またはFLAT(フラット)が点灯します。切り替えはリモコンで行います。デジタルフィルターの違いについて詳しくは、16ページを参照ください。

⓭CDドア ノブ

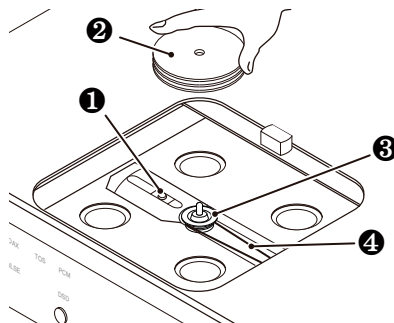
手で後ろへスライドさせて開き、ディスクをセットします。閉めるときは、手前に引きます。
CD トレイ内部をきれいに保つため、使用しないときでも閉めておいてください。

CDドアの内部

❶光学式ピックアップ

CDに記録された信号を読み取るピックアップのレンズです。きれいに保ち性能を損なわいようにするため、指などで直接触れないでください。また、使用しないときでもCDドアはいつも閉めておいてください。

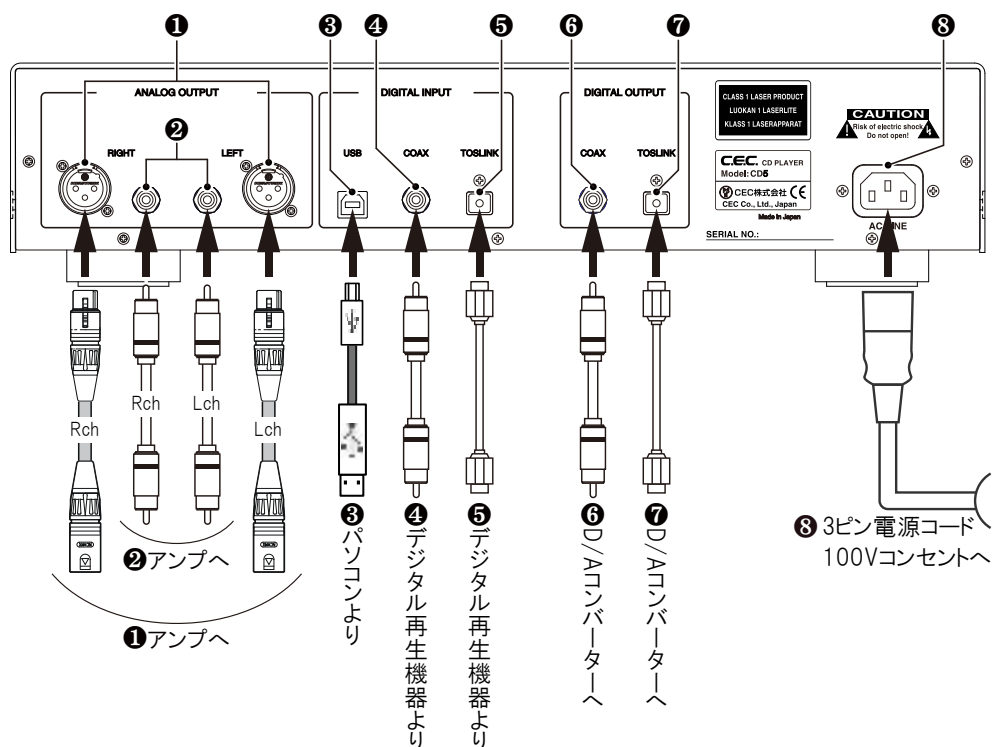
❷CDスタビライザー

直径7cm, 質量330gのCDスタビライザー(付属品)です。セットするときや取り外すときは、縁をしっかりと持ってください。真円やバランスを考慮した精密部品ですので、落としたりして偏重心が生じると、CDの読み取り精度や音質に影響します。お取り扱いは十分ご注意ください。

❸ターンテーブル

CDをセットしてからCDスタビライザーを乗せます。再生しないときなど、CDをセットしてない場合でも、CDスタビライザーはターンテーブルに乗せておくことができます。

❹スピンドルベルト

ディスク駆動用の角型ゴムベルトです。日常的なメンテナンスは不要ですが、経年変化により張力が低下すると回転精度が低下してCDを正しく再生できなくなります。ベルトの交換方法は、22ページを参照ください。

リアパネルの機能と接続

アナログ出力

❶XLR(バランス)

バランス型XLR出力端子です(1=GND, 2=Hot, 3=Cold)。バランス型入力端子を備えた音量調節機能付きのアンプなどとバランスケーブルを使用して接続します。バランス回路設計された本機の性能を十分に引き出すには、バランス型接続のご使用をお薦めします。

❷RCA(アンバランス)

標準的なアンバランス型RCA出力端子です。RCAケーブルを使用して音量調節機能付きのアンプなどと接続します。

デジタル入力

❸USB

USB入力端子です。AプラグとBプラグ付きのUSBケーブルを使用してパソコンと接続します。PCM信号のサンプリング周波数は32kHz～384kHzに対応し、DSDは2.8(2.8224)MHzと5.6(5.6448)MHzに対応しています。

備考 : Macパソコン(X10.6.8以降)は、USBドライバーのインストールは不要ですが、Windowsパソコン(XP以降)は、専用USBドライバーをインストールする必要があります。ハイレゾ音源などに対応する音楽再生プレーヤーはご自身でご準備ください。
なお、Windowsパソコン(XP以降)では、foobar2000にASIOドライバーなどを追加することで、DSD2.8MHzと5.6MHzの再生ができるようになります。これらWindows用のドライバーは、CECダウンロードサイトから入手してインストールとセットアップを行ってください。
詳細は、別冊「USBドライバーのインストールとセットアップ ガイド」を参照ください。

❹COAX

同軸型デジタル入力端子です。サンプリング周波数は32kHz～192kHzに対応しています。COAXIAL(RCA型)出力端子を搭載したデジタルオーディオ機器と接続します。75Ωのケーブルをご使用ください。

❺ TOS LINK

光(オプティカル)デジタル入力端子です。角型TOSLINKプラグ付きのオプティカルケーブルを使用して接続します。サンプリング周波数は、32kHz～192kHz に対応しています。使用しないときは、キャップを戻しておいてください。

デジタル出力 - 本機でCD再生するデジタル信号が出力されます。

❻COAXIAL

同軸型のデジタル出力端子です。COAXIAL(RCA)入力端子を備えたD/Aコンバーターなどのデジタルオーディオ機器と接続します。75Ωの同軸ケーブルをご使用ください。

❼TOS LINK

光(オプティカル)デジタル出力端子です。角型TOSLINK光デジタル入力端子を備えたデジタルオーディオ機器と接続します。角型の光ケーブルをご使用ください。使用しないときは、キャップを戻しておいてください。

電源入力

❽AC LINE

付属の電源コードを接続し、ご家庭のコンセント(100V)に接続します。

リモートコントロールユニット

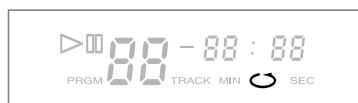
ボタンの機能

❶テンキー

聴きたい曲をダイレクトに選択できます。また、曲をプログラムするときに使用します。

※ 10曲目以降は+10を押してから、20曲目以降は+10を2回押してから0～9を押します。

❷REPEAT(リピート)ボタン

全曲を繰り返し再生するとき、再生中または停止中に押すと、ディスプレイにリピートインジケーター(⟲)が点灯し、リピート再生モードになります。停止中のときは、PLAY/PAUSE▶/❚❚ボタンを押しリピート再生を始めてください。ボタンをもう一度押すと、リピート再生はキャンセルされます。

❸CHECK(チェック)ボタン

プログラムした曲と順番を確認したいときに押します。詳細は19ページの「プログラム再生」の項目をご参照ください。

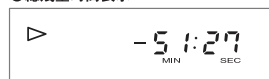
❹CLEAR(クリア)ボタン

プログラムした曲を取り消すときに押します。詳細は19ページの「プログラム再生」の項目をご参照ください。

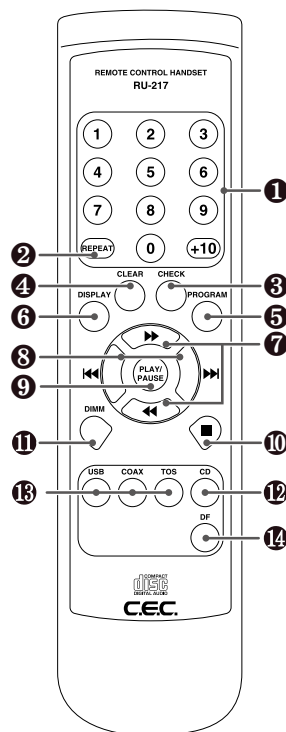
❺PROGRAM(プログラム)ボタン

聴きたい曲を聴きたい順に32曲までプログラム(登録)し再生できます。詳細は19ページ「プログラム再生」の項目をご参照ください。

❻DISPLAY(ディスプレイ切り換え)ボタン

ディスプレイの表示を切り換えます。最初の曲番号と再生経過時間の表示から、1回押すごとに、その曲の残り再生時間、ディスク全体の残り再生時間、ディスク全体の再生経過時間へと表示が切り替わります。

※プログラムとリピート再生中は、総残量と総経過時間は表示されません。

❼サーチ ◀◀/▶▶ ボタン

再生中の曲を早戻し◀◀または早送り▶▶します。本体のフロントパネルには、この機能のボタンはありません。

❽スキップ|◀◀/▶▶|ボタン

再生中や停止中に前後の曲に移動します。

❾PLAY/PAUSE▶/❚❚ ボタン

再生を開始、または再生中の曲を一時停止します。

❿ストップ ■ ボタン

再生を停止します。

⓫ DIMM ボタン

ディスプレイの明るさを3段階(消灯⇒暗い⇒明るい)に切り替えます。

⓬ CD ボタン

CD再生モードにします。

⓭デジタル入力選択ボタン

USB、COAXまたはTOSを選択します。

⓮ DF(デジタルフィルター)ボタン

デジタルフィルターPULSEまたはFLATを選択します。デジタルフィルターの説明は、16ページを参照ください。

リモコンの使用上の注意

▷ リモコンを操作するとき、リモコン送信機を本機のリモートセンサー部に向けてください。

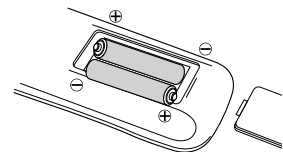
▷ リモコンを操作するとき、送信機と本機との間に障害物があると正しく動作しません。

▷ フロントパネルのリモートセンサー部分に直射日光を当てないでください。誤動作の原因となることがあります。

▷ 電池が消耗するとリモコンは正しく動作しません。この場合は同じタイプの新しい電池と交換してください。

▷ リモコンの操作で誤動作すると、CDへ切り替えてもカチッというリレー音が聞こえず前の音源表示が残っていたり、CDから外部音源へ切り替えても同様にリレー音が聞こえず音源が表示されない、あるいはDIMMボタンを押すと部分的に明るさが異なって切り替わる等の現象が起こることがあります。このようなときは、もう一度正しくリモコンを操作し、音源を選択し直してください。

電池の入れ方

リモコン裏面のフタを外し、ケースの⊕と⊖表示に合わせて乾電池(単4形)2本を入れてください。

電池の交換時期

操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。

電池の取り扱い

乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。以下の注意をよく読んでご使用ください。

▷ 乾電池の⊕と⊖の向きを電池ケースに表示されている通りに正しく入れてください。

▷ 新しい乾電池と古い乾電池、またはアルカリ乾電池とマンガン乾電池など種類の違う電池を混ぜてご使用にならないでください。

▷ 乾電池は絶対に充電しないでください。

▷ 長期間(1ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、液もれによってリモコンが破損することがないよう、電池を取り出しておいてください。

▷ 万が一液もれを起こしたときは、ケース内に付着した液をよく拭き取ってから新しい電池と交換してください。

デジタルフィルター

本機には、CDを再生しているときや外部音源からSPDIF/PCM信号を入力しているときに、デジタルフィルターの特性を切り替えて、再生音楽に適した設定を行うことができます。切り替えは、付属のリモコンのFILTERボタンを押して行います。

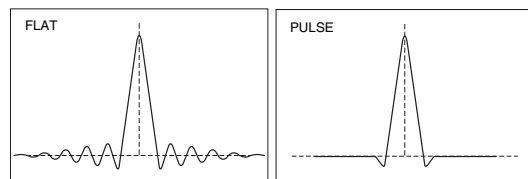
■デジタルフィルター切り替え時に、スピーカーやヘッドフォンからポップノイズが発生することがありますので、切り替えは音量を下げてから行うことをお勧めします。

備考: DSD信号を入力しているときは、FLATが自動設定され、PULSEに切り替えることはできません。

備考: ディマー機能により表示を消灯しているときFILTERボタンを押すと、デジタルフィルターの設定はそのままで、表示の明るさがデフォルトの"明るい"に戻ります。デジタルフィルターを切り替えるには、もう一度FILTERボタンを押してください。

FLATは、一般的なD/Aコンバーターでよく用いられるフィルターで、CD再生の場合、通過帯域(20Hz ～ 20kHz)で周波数特性がフラットであり、20kHz以上の信号を直線的にカットするため、帯域外の余分な信号(ノイズ)を強力に抑えることができます。

PULSEは、周波数帯域で異なる伝達速度(位相特性)を同じにすることで、リンギング※を抑え、CD再生の場合、20kHz近辺で徐々に減衰する周波数特性を持っています。そのため、再生音はFLATフィルターに比べて、より自然に聞こえます。

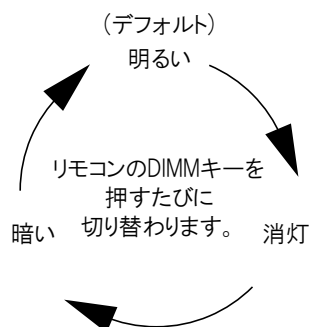
※FLAT/PULSEのリンギングの違い

デジタル信号が回路を通過したときに生じる波打った波形

ディマー(ディスプレイの明るさを切り替える)

ディスプレイの文字の明るさを3段階に切り替えることができます。

❶リモコンのDIMMボタンを押すたびに、右図のような順に明るさが切り替わります。

❷ CDモードでディスプレイを"消灯"にしているとき、ディスクの交換などでCDドアを開くと、"暗い"でOPEn が点灯しますが、CD ドアを閉めると再び"消灯"します。

❸設定した明るさに関わらず、音源切り替えボタンやデジタルフィルター切り替えボタンを押したり、電源を入れ直すと、自動的にデフォルトの"明るい"に戻ります。

備考: "消灯"のときのデジタルフィルター切り替えボタンは、押してもデジタルフィルターの設定はそのままで、表示だけがデフォルトの"明るい"に戻ります。デジタルフィルターの設定を替えるには、もう一度デジタルフィルター切り替えボタンを押してください。

CD再生

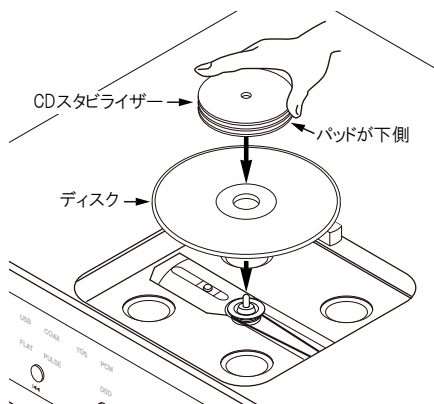
通常再生

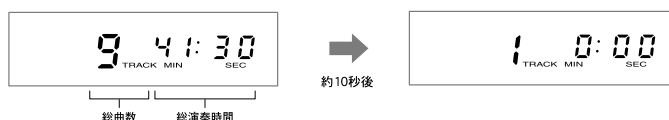
❶電源スイッチを押して電源を入れます。

❷音源切り替えボタンまたはリモコンのCDボタンを押して、CDを選択します。CD用のディスプレイが点灯します。

❸手でCDドアを後ろ側へスライドさせて開きます。CDドアが開いているときは、ディスプレイに "OPEn" と表示されます。

❹CDスタビライザーの縁をしっかりと持って持ち上げます。ターンテーブルにディスクを乗せ、その上にCDスタビライザーを静かに戻します。

備考：ディスクやCDスタビライザーの先端を少し下げながらCDドア内部へ入れるようにするとセットし易くなります。

■ディスクはレーベル面を上にしてターンテーブルに乗せてください。
■CDスタビライザーを乗せないとディスクがターンテーブルから外れ、ディスクの読み取りができない上に、ディスクが傷つくことがありますので、CDスタビライザーを乗せ忘れないようにご注意ください。
■指定以外のCDスタビライザーは性能を損なう恐れがありますので、使用できません。

❺手でCDドアを前側へスライドさせて閉めます(完全に閉めないとディスクの読み込みができません)。ディスクが回転を始めディスク情報を読み取り、約5秒後に総曲数と総再生時間を表示します。

PLAY/PAUSE▶/❚❚ボタンを押さずにそのままにしておくと、約10秒後に1トラック目の再生待機の表示に変ります。

❻PLAY/PAUSE▶/❚❚ボタンを押します。再生が始まります。
ディスプレイに(▷)とトラックナンバーを表示し、次に経過時間が表示されます。

曲を前後にスキップするとき

再生中にスキップ▶▶Iボタンを押すと次の曲にスキップします。スキップI◀◀ボタンを押すと再生中の曲の頭に、続けてもう一度押すと前の曲にスキップします。複数曲スキップするときは、スキップしたい回数だけ押します。

一時停止するとき

PLAY/PAUSE ▶/ ❚❚ ボタンを押します。もう一度押すと、再び再生を始めます。

再生を停止するとき

STOP■ ボタンを押します。

STOP■ ボタンを押さずにCDドアを開けると再生は停止しますが、ディスクの回転が止まるまで数秒かかります。回転が完全に止まるまではCDスタビライザーとディスクには触れないでください。特に、下方へ強く押さえつけると、回転メカニズムに無理な力が加わり、故障の原因となることがあります。

ディスクを取り出すとき

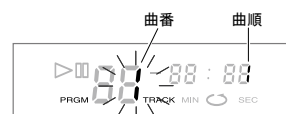
手でCDドアをスライドさせて開きます。CDスタビライザーの縁をしっかり持って取り外し、ディスクを取り出します。CDスタビライザーをターンテーブルに戻し、手でCDドアをスライドさせて閉めます。

備考: 再生終了後、ディスクはそのままにせず、取り出しておいてください。再生しないときなどディスクをセットしていない場合でも、CDスタビライザーはターンテーブルに乗せておくことができます。

プログラムCD再生

メモリー登録

始めにプログラム再生する曲を登録します。登録は、停止状態で行います。

❶リモコンのPROGRAMボタンを押します。ディスプレイに"PRGM"の表示が出て曲番の"1"が点滅、曲順の"1"が点灯します。

❷テンキーボタンを押して希望の曲番号を選択します。テンキーボタンを押すだけで自動的に登録されます。

例）テンキーの5を押すと、曲番に"5"が点灯し、曲順1にトラック5が登録されます。
次にテンキー3を押すと、トラック3が曲順2に登録されます。

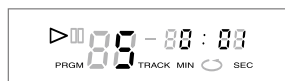
複数の曲を登録するにはテンキーボタンを続けて押します。登録された曲数は、ディスプレイの右側に曲順として表示されます。最大32曲まで登録できます。

▷ CDに入っている最大トラック数より大きい数値を入力すると自動的に最終トラックが選ばれることがあります。

▷ 曲順2以降は、スキップ|◀◀/▶▶|ボタンを押して希望の曲番号を点滅させ、リモコンのPROGRAMボタンを押して登録することもできます。この場合は、希望の曲番号を点滅させた後、その都度PROGRAMボタンを押して登録します。

❸STOP ■ ボタンを押して登録作業を終了します。順番 1 に登録した曲番が表示されます。
32曲まで登録してある場合、ディスプレイに"FULL"が表示されます。

プログラム再生

ディスプレイに"PRGM"が表示されているときに、PLAY/PAUSE▶/❚❚ボタンを押すと、登録された曲が順番に再生されます。

通常の再生に戻る場合は、停止中にもう1度リモコンのPROGRAMボタンを押し("PRGM"表示が消えます)、プログラムモードを解除してからPLAY/PAUSE▶/❚❚ボタンを押してください。
プログラムモードに戻すには、もう1度リモコンのPROGRAMボタンを押します。

プログラムの確認、追加、修正と削除

プログラムの確認、追加、修正と削除はプログラム再生の停止状態で行います。

❶確認

CHECKボタンを押すたびにディスプレイにトラック番号と曲順が表示されます。登録された最終曲番号までくると、次は「－ －」表示となり、もう1度押すと最初に登録した曲番に戻ります。

※STOP ■ ボタンを押すと順番1の表示に戻ります。

❷追加

プログラムに新しい曲を追加するには、STOP ■ ボタンを押し、テンキーで新しい曲番を押すと最終曲に追加できます。STOP ■ ボタンを押して、操作を完了させます。

❸修正

CHECKボタンを押して修正したい曲番を出し、テンキーで新しい曲番を押すとプログラムが上書きされます。STOP ■ ボタンを押して操作を完了させます。

❹削除

▷ 全曲削除するには、CLEARボタンを2秒以上押し続けます。
▷ 1曲削除するには、CHECK ボタンで削除したい曲番を選択しCLEARボタンを押します。
▷ 複数曲を1曲ずつ削除する場合は、CHECK → CLEARを繰り返します。
▷ CDドアを開けたり電源を切ると、登録は全て削除されます。

D/Aコンバーターの機能

COAXやTOSに接続するデジタルオーディオ機器の再生

❶ 電源を入れてから、音源切り替えボタンまたはリモコンのCOAXまたはTOSボタンを押して、接続した外部音源を選択します。

❷ 選択した音源のインジケーターと入力信号のサンプリング周波数が表示されます。

表示例 : COAXIAL端子からPCM 44.1kHzの信号を入力し、デジタルフィルターをFLATに設定しているとき

備考 : 再生中だけ同期するタイプの外部機器の場合、接続していても停止中やスキップなどのとき、サンプリング周波数が非表示 (- - -) になることがあります。再生してもサンプリング周波数が表示されず音が出ない場合は、非同期です。

❸ デジタルオーディオ機器の再生を始め、アンプまたはヘッドフォンの音量を調整します。

USB接続するパソコンの再生

Macパソコン(X10.6.8以降)は、USBドライバーのインストールは不要ですが、Windowsパソコン(XP以降)は、専用USBドライバーをインストールする必要があります。ハイレゾ音源などに対応する音楽再生プレーヤーはご自身でご準備ください。
なお、Windowsパソコンでは、foobar2000にASIOドライバーなどを追加することで、DSD64/128の再生ができるようになります。これらWindows用のドライバーは、CECダウンロードサイトから入手してインストールとセットアップを行ってください。
詳細は、別冊「USBドライバーのインストールとセットアップ ガイド」を参照ください。

❶ USB接続して電源を入れると、パソコンは CD5をCEC CD5 HS USB Audioとして認識します。

❷ 音源切り替えボタンまたはリモコンでUSBを選択します。USB音源インジケーターと入力信号のサンプリング周波数が表示されます。

表示例 : USBを選択しパソコンと同期した直後(表示されるサンプリング周波数は環境により異なります) またはPCM 48kHzの音楽ファイルを再生し、デジタルフィルターをPULSEに設定しているとき

❸ パソコンで音楽ファイルの再生を始め、アンプまたはヘッドフォンの音量を調整します。

表示例 : DSD 5.6MHzの信号を入力しているとき(DSD再生中のデジタルフィルターは自動でFLATに設定され、PULSEに切り替えることはできません)

ベルトのメンテナンス

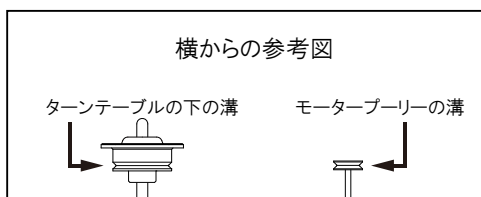
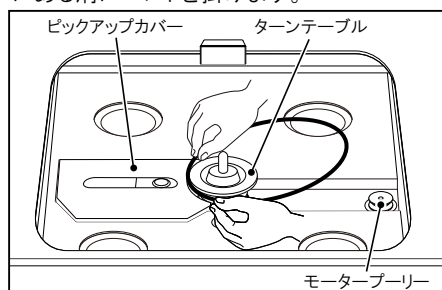
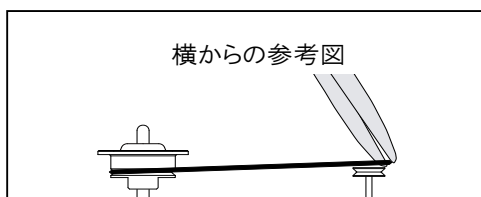
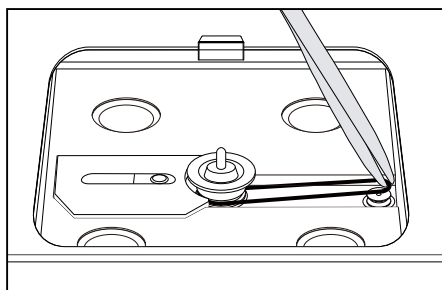
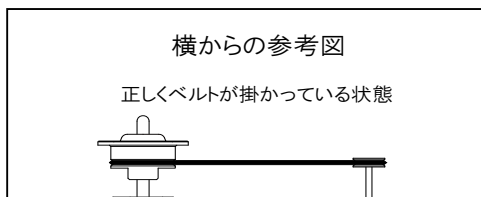
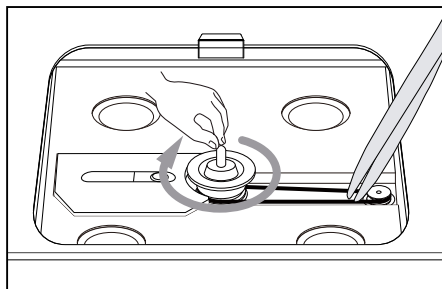
ベルトドライブ方式のメカニズムに使用している角型ゴムベルトは、定期的な保守・点検は必要ありません。しかし、経年変化で張力が低下するとディスクが正しく回転しないため、CD情報の読み取りに失敗したり、再生音にノイズが混入したり音飛びが発生することがあります。これらの症状がベルトに起因している場合には、ベルトを交換することで症状が改善します。なお、ベルト以外に原因がある場合には、ベルトを交換しても症状は改善しませんので、お買い上げの販売店または当社サービスまでご連絡ください。

ベルトの交換時期の目安は概ね5年程度ですが、それ以上経過しても正常に動作している間は、交換する必要はありません。

ベルトの交換方法

交換用ベルトは、お買い上げの販売店または当社サービスセンターにご用命ください。純正以外のベルトは使用できません。

❶ 古いベルトを取り外します。

❷ 新しいベルトをピックアップカバーとターンテーブルの隙間に通してから、ターンテーブルの下にある溝にベルトを掛けます。

❸ 次にモーターのプーリーの溝に掛けます。ピンセットを使うと比較的簡単に掛けることができます。

❹ 正しくプーリーの溝にベルトが収まっていることを確認します。また、ベルトがねじれている場合は、修正します。ターンテーブルの中心軸を手で回転させながらピンセットでねじれを徐々に修正すると、ベルト全体のねじれが直りやすくなります。

ベルトドライブCDお取扱いのご注意（まとめ）

❶CDスタビライザーの取扱は丁寧に

重いCDスタビライザーを誤って落として他のものを破損しないようご注意ください。また、CDスタビライザーが変形すると、ディスクの読み取りに支障をきたすことがあります。高価な精密部品です。お取扱には十分ご注意ください。

❷CDスタビライザーをターンテーブルに乗せるとき

CDスタビライザーを乗せるときや外すときは、その中心の穴に対して、ターンテーブルの中心のスピンドルシャフト(軸)が、垂直に入ったり出たりするようにお取扱いください。斜めにすると途中で引っ掛かったり、特に傾いたままディスクに乗った状態になると、正しく読み取りや再生ができなくなることがありますのでご注意ください。

❸回転が止まるまで手を触れない

再生を停止した直後にCDドアを開くと、慣性によりディスクがまだ回転していることがありますが、ディスクの回転が完全に止まるまでは、CDスタビライザーとディスクに触れないでください。特に、下方へ強く押さえつけると、回転メカニズムに無理な力が加わり、故障の原因となることがあります。

❹光学式ピックアップのレンズに触れない

光学式ピックアップは、CDプレーヤーの性能を決める重要な部品のひとつです。レンズ部分に指などで触れないようにしてください。レンズの表面をきれいに保つために、ご使用にならないときは、CDドアを閉めておいてください。

お手入れの仕方

❶日常的なよごれは

必ず柔らかい布でからぶきするようにしてください。からぶきで取れないよごれは薄めた中性洗剤で湿らせた布で拭き取ってください。洗剤をご使用の場合は最後に必ず水で湿らせた布で拭き取って洗剤分が残らないようにしてください。また本機をベンジン、シンナーなどの揮発油系の液体や化学ぞうきんで拭いたり、クレンザーなどや漂白剤をご使用なさることはお避けください。また近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布することは避けてください。

❷ターンテーブルに埃が溜まっているとき

セロテープ等で埃を取り除いてください。その際に、光学式ピックアップのレンズ部分に指などで触れないようご注意ください。

❸定期的な保守・点検

本機の定期的な保守・点検は必要ありません。不具合の際の点検・修理は販売店または弊社サービスセンターにご依頼ください。

保証とアフターサービス

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいと思ったときは、サービスをご依頼になる前に以下の内容をもう一度チェックしてください。それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店または当社サービスまでご連絡ください。

症状	原因	対処法
電源が入らない	電源ケーブルがしっかり接続されていない	電源ケーブルを正しく接続する
CDを入れても再生できない	CDスタビライザーが乗っていない	CDスタビライザーを乗せる
	CDドアが開いている	CDドアを完全に閉める
	CDが裏返しになっている	CDのレーベル面を上にして入れる
	CDがひどく汚れている	クリーニングする
音飛びがする	プレーヤーに振動やショックを与えている	設置場所を変える
	ディスクがひどく汚れている	クリーニングする
音が出ない	外部機器が再生してない	再生を始める
	接続方法が間違っている	説明書に従って正しく入出力端子に接続する
	違う入力端子を選択している	再生する機器を接続した端子を選択する
	D/Aコンバーターやアンプの操作が間違っている	接続やセレクター、ボリュームの位置を確認する
	誤動作している	全ての機器の電源を入れ直す
音が歪む / 音が悪い	指定のケーブルを使って接続していない	指定のケーブルを使う
	接続方向が間違っている	接続ケーブルの向きを確認する
ハム音が出る	ピンプラグの接触不良	ピンプラグをしっかり差し込む
チューナーにノイズが入る	本機とチューナーの設置場所が近すぎる	チューナーから離れた場所に設置するか電源を切る
リモコン操作できない	本体の電源が入っていない	電源スイッチを押す
	リモコンに電池が入っていない	電池を入れる
	リモコンの電池が弱っている	新しい電池と交換する

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は電源スイッチを押して一旦電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、しばらくしてから再び接続し電源を入れてあらためて操作してください。

保証について

1. この製品には保証書を別途添付しております。 保証書は、 販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、 記載内容をご確認のうえで取扱説明書などと一緒に大切に保管してください。

2. 保証期間はお買い上げ日より2年です。 保証期間中は保証書の記載内容により、 お買い上げ販売店または弊社が修理いたします。 その他詳細につきましては保証書をご参照ください。

3. 保証期間経過後、 または保証書を提示されない場合の修理などについてご不明の場合は、 お買い上げの販売店または当社にご相談ください。 保証期間経過後、 修理によって機能が維持できる場合は、 お客様のご要望により有料にて修理いたします。

4. この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、 製造打ち切り後8年です。

サービスのご依頼について

万一、 故障が発生し修理を依頼される場合は、 次の事項を確認し、 お買い上げのお店または弊社サービスセンターにご遠慮なくご相談ください。

1. 型名、 型番
2. 故障の内容
3. お買い上げ年月日
4. お名前、 住所、 電話番号

主な仕様

CD再生可能ディスク	一般音楽CD, ファイナライズ済み音楽用CD-R/RW
スピンドル駆動方式	ベルトドライブ
CDスタビライザー	直径約70mm, 質量約330g(真鍮製)
デジタル出力	COAXIAL x 1: 0.5Vp-p/75Ω
	TOS x 1: -21 ～ -15dBm EIAJ
デジタル入力 / サンプリング周波数	COAXIAL x 1: SPDIF 24bit/32～ 192kHz
	TOS x 1: SPDIF 24bit/32 ～ 192kHz
	USB2.0 x1: PCM 32bit/32～384kHz, DSD64/2.8224～DSD128/5.6448MHz
DAC	ESS ES9018K2M x 1
デジタルフィルター	FLAT / PULSE 切り替え (DSD入力再生時はFLATのみ)
アナログ出力	バランス型XLR(2 番ホット) x 1 / 4Vrms
	アンバランス型 RCA x 1 / 2Vrms
ヘッドフォン出力	6.3mm x 1
周波数特性	20Hz ～ 20kHz, ±0.1dB (CD再生時)
S/N 比	105dB, 1kHz/0dB
クロストーク	105dB, 1kHz/0dB
THD	0.016%, 1kHz/0dB
電源	AC100V, 50/60Hz
消費電力	17W
外形寸法	約435(W) x 335(D) x 109(H)mm(ボタン、端子、レッグ含む)
質量	約8.6kg (CDスタビライザー含む)
付属品	CDスタビライザー、 電源コード、リモコン、単4形乾電池2本、 取扱説明書、 USBドライバーのセットアップガイド、保証書
外観色	シルバー / ブラック

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。

製品の改善により、取扱説明書のイラストなどが一部製品と異なることがあります

CEC株式会社 http://www.cec-web.co.jp

サービスセンター：有限会社エステック 修理センター

〒370-0535 群馬県邑楽郡大泉町寄木戸1316-5
TEL: 0276-49-5036 FAX: 0276-62-8341

1510-C